

水辺だより



1994年4月

さくら咲く季節となりました。みなさん お元気ですか？

3月の水辺だよりはお休みしましたので今月はもりだくさんのおまけサービス付きの号となりました。……きっと会員でいて良かったと思える……

そうそう、住所変更などありましたら事務局までお知らせください。

主な記事

- ・ 5月28、29日の高柳町鯖石川ウォッチングのお誘い
- ・ 水辺のリレーエッセイ 佐藤修一さんの巻
- ・ 3月の信濃川・千曲川交流会の報告 etc.

おまけの解説

「小川の増自然」

………昨年の自然環境復元シンポでの石城謙吉さんの基調講演を基に編集した、水辺の会初の本格的な発行物です。復元シンポで余ったお金と、水辺の会の会計から出資して1,000部作りました。会員の方に1冊ずつ無料配付しますが、販売する場合は1冊700円（50冊以上まとまれば1冊500円）とする予定です。

「川とふれあうー生命をはぐくむ流れー」

………大熊せんせい毎日小学生新聞に連載していた文章をまとめて小冊子にしました。わかりやすく、私たち大人もためになる内容です。

これら本をまわりのかたに紹介して水辺に興味をもつ人を増やしてもらえたら幸いです。



会員のみなさんに無料配布しています。

海と川を 行き来する
ほぐくぐのことも 考えてヨ

早く 海を見てみたい

おいらは 山のあの娘に
また会いたいの

と、いっわけで
鯖石川を見に行こう



☆☆ウォッチング☆☆

高柳町を流れる鯖石川の取水堰（長トロ堰）改築工事で
新潟県（柏崎土木事務所）が魚にやさしい設計を採用（^_^）

今年2度目のウォッチングでは、この自然にやさしい堰を見学することにしました。

日程：【5月28日（土）から29日（日）】 （一泊2日）
28日 鯖石川ウォッチング！ 粗石付斜曲面魚道を見学
（ふるさとの川モデル事業）
29日 黒姫山（889.5m）山開き登山！ （参加は自由です。
長野県の黒姫山ではありません）

旅の宿：「門出かやぶきの里」（門出ふるさと村組合）

参加費： 7,000円前後

詳しい予定は、次号でお知らせします。緑濃い季節のウォッチングへ、みなさん奮って
ご参加ください。見学と登山を大いに楽しみましょう！ （知野）

参加希望者は5月6日までに事務局に連絡をください。

知野さんからの
おまけ

■質問にお答えします。

Q. 魚にやさしい堰設計ってどんなもの？

A. 最初の改修計画は魚にやさしくないものでした。

そこですでに着工されていたのですが、新潟県の英断によって次のような変更が
採用されたのです。

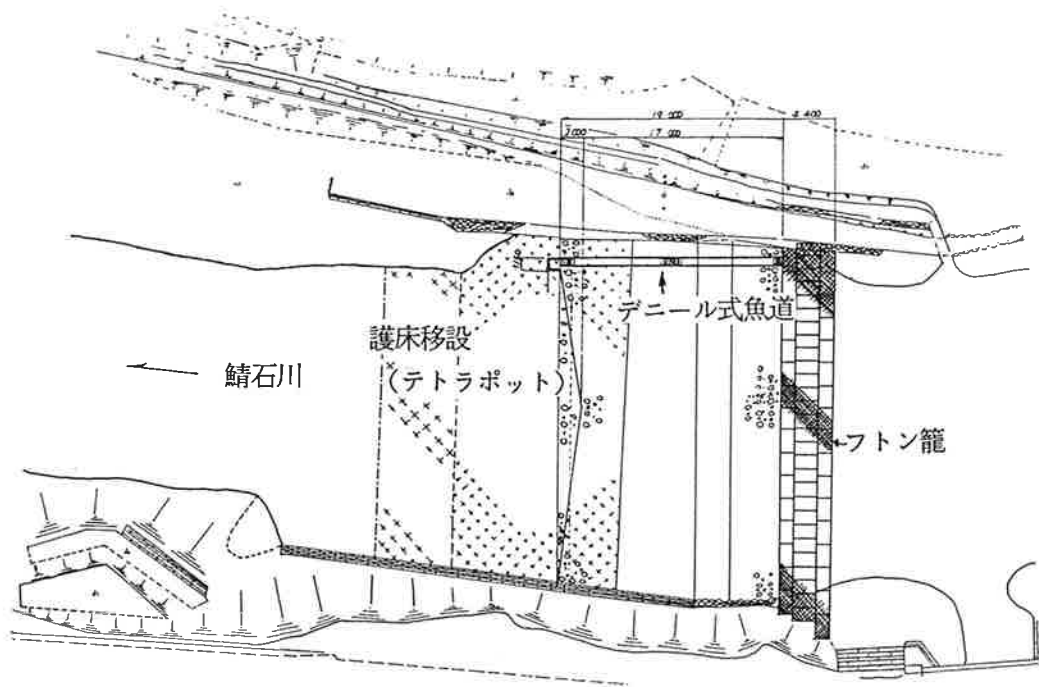
《当初計画からの変更点》

- ①堰上げ用のふとん籠をやめる→∵水の流れが少ない時、
石の隙間を水が通るから魚が登れない！
- ②床固め用のテトラポットをやめる→∵水の流れが乱れるので、
魚は上流方向がわからなくなる！
- ③デニール式魚道をやめる→∵上る魚にはよいが、下る魚には危険！
（ひっかかる）



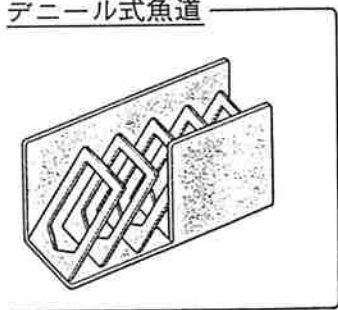
《粗石付き斜曲面魚道を採用》

（これは堰上面に人工的な早瀬を作り出し、魚道の代わりとするものです。）

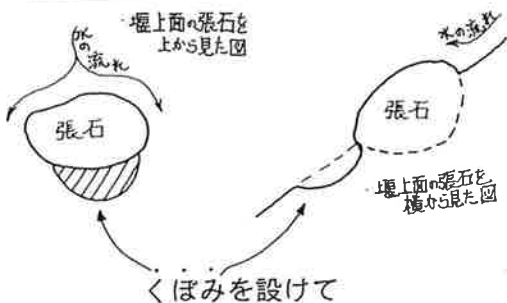
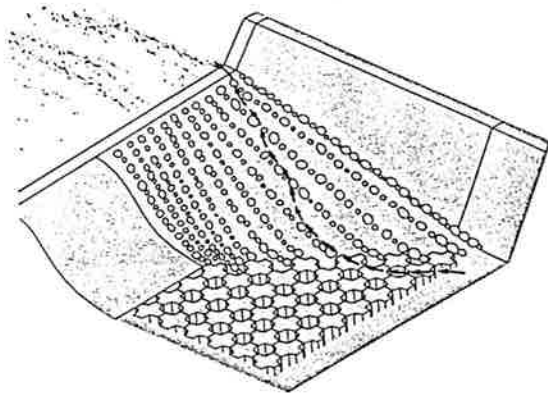


当初改修計画における堰平面図

デニール式魚道



粗石付き斜曲面魚道



くぼみを設けて
魚がやすめるようにしてある。

堰上面を勾配が横断方向に変化する曲面となるよう成形し早瀬をつくります。これで流水の大部分が急勾配の方向に向います。魚にとってはその縁が遡上しやすい経路となるのです。

こうした魚にやさしい魚道が県内の河川構造物で採用された例は少なく、鯖石川は画期的な事例となるでしょう。みなさん！この機会にぜひウォッチングしておきましょう。

水辺のリレーエッセイ

ダム騒動でんまつ記

関川村 佐藤修一（関川村立関谷中学校教諭）

私の住む集落には村営上水道の他に、関川村にまだ上水道が引かれな
い昭和30年代初期に集落民の涙ぐましい努力によって建設された水道
がある。それは生活用水としてはもちろん住民の誇りにさえなっている
貴重な水道である。

その水源の上流にダムができると聞いたのは一昨年秋だった。ダム
ができれば水は汚れ、涸れ、水道はだめになる。何としてもそれは避け
たいと思った。

関川村をご存じだろうか。「たいしたもん蛇まつり」、荒川峡温泉、
鮎釣りや鯿取りができる荒川、最近ではカヌーのメッカでもある。山好
の方なら飯豊連峰杖差岳、一等三角点のある朴坂山（ほろさかやま）もご存じ
かもしれない。私の住む集落はその朴坂山のふもとにあり、水道の水源
は朴坂山の脇（わき）の沢である。

朴坂山光如筑波／荒川風景似鴨川／北州誰識真佳境／一粹無人奈独何
（朴坂山光 筑波ノ如シ／荒川ノ風景 鴨川ニ似タリ／北州 誰カ知ル 真ノ佳境／一粹 人無ク 独リヲイカンセン）

これは幕末の頃、水原代官所で学問の指導をしていた頼支峰（頼山陽
の次男）が関川村に来訪した際に詠んだ詩だそうだが、朴坂山の四季折
々の美しさとそこに流れる清流、そしてそこに育まれる命はそこに住む
者の安らぎと張り合い、そして誇りとなっている。

水道を維持管理するために、集落の若者が年に2回取水口や貯水庫を
掃除している。ダムができるかもしれないと聞いたのはその作業中だっ
た。相手は営林署、なんとかならないものかと、取り合えず区長に営林

署との話し合いの場を設けて欲しいと要望書を提出した。ありがたいことに区長も真剣になってこの問題に取り組んでくれ、集落民と村上営林署との話し合いが平成5年2月15日に実現した。

そこでの話し合いは水道維持の可否に焦点が絞られた。コンクリートが流れ込むのではないか、水が涸れるのではないか、工事中道路の建設で自然が破壊されるのではないか等、数々の質問が出された。しかし、当局は水道は維持できる、自然保護に極力努めるという強気の姿勢だった。結局その場では結論は出ず、後日集落の総意をまとめ、当局に提出することになった。

集落の寄り合い（総会）では、水道が無事なら強く反対することもあるまいという考え方が主流で、治山という大義名分を覆すことはできなかった。しかし、確約を取ろうと、その要望書を作成することにした。平成5年3月1日、その要望書を村上営林署に持参し、後日、課長名で確約する旨返事を得た。

これが当集落における「ダム騒動」のてんまつ記である。最初から最後までかかわって、ダム建設は阻止できなかったが、水を守ることは生活を守ること、それは集落や自分の誇りでもあったことを改めて考えさせられた。それまでは集落の寄り合いなど関係ないと思っていたのも間違いだったと反省している。この問題が表面化する以前に、寄り合いでダム建設を原則的に了承していたという経緯があったのだ。気が付いたときから行動、いやそれ以前に身近な集落や村の動きに敏感になっていなければならないと教えられた事件でもあった。また、若者が集落の年寄り（と言っては失礼だが）とダム建設の反対運動にかかわって、今後集落をどうしたらいいのかということについて腰を据えて語り合えたのも大きな収穫だった。

別紙資料もそえたので、ご批判・ご批正をいただきたい。

朴坂区長 石山良平殿

FAC遊朴民代表 石山 茂

朴坂山（脇の沢～マゴダラ沢）における
治山ダム建設に関する要望書

日頃より朴坂発展のためにご尽力されている貴台に対し、敬意を表するとともに、当クラブの活動にご理解とご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

さて、先日朴坂山に治山ダムとそれに関わる工事道路が建設される話をうかがいました。

朴坂山は一等三角点のある山として村民に親しまれ、多くの登山愛好者が訪れるようになりました。そこは、ニホンカモシカやサンコウチョウ、イワタケやフユイチゴ、ヒメサユリなどの貴重な動植物の生息地でもあります。また朴坂山は、ぜんまいや松茸などの山菜が豊富で、山菜取りはそこに住む者の生活に深く関わり、生きる張り合いにもなっています。沢の流れは清冽で、昭和 年には、脇の沢から飲料水として朴坂全戸に水道をひき、現在は生活用水としてなくてはならないものになっています。朴坂山の四季折々の美しさとそこに流れる清流、そしてそこに育まれる命は、そこに住む者の安らぎと張り合い、そして誇りなのです。

もし、治山ダムとそれに関わる工事道路が建設されれば、現在朴坂全戸が利用している朴坂水道に壊滅的な影響があるのは必至です。また、昔から大切に守り育ててきたものが危機に瀕するのは目に見えており、村人の安らぎと張り合い、そして誇りまでも失いかねません。

自然や生活を守り、村を活性化する願いは村人も営林署も共通のものです。それを実現するためには、もう一度両者が話し合うほかありません。願わくは迅速な処置で、当局との話し合いの場を設定していただきたく、お願い申し上げます。

*サンコウチョウ（ヒタキ科）

夏鳥としておもに本州以南の低地から低山の林に渡来。

【形態】目の回りとくちばしは青く、からだはぶどう色。

【習性】ツキヒホシホイホイホイときえずる。

（日本の野鳥、小学館より）

村上営林署長 本田守邦 殿

関川村朴坂区長 石山良平

脇の沢砂防ダム建設に対する要望について

早春の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より国有林の管理や国土の保全にご尽力されていることに対し、敬意を表するとともに、当集落の活動に多大なご理解とご協力をいただき、集落民一同心より感謝申し上げます。

さて、一昨年以來、貴署から脇の沢砂防ダム建設についての事業内容説明と協力要請があり、当集落では協議の上、原則的に了承申し上げたところであります。しかし、事業の具体化に伴って、集落内においていくつかの心配される点が出され、去る2月15日になお詳細にご説明をいただき、質疑もさせていただきました。その後集落で再度協議し、心配される事項についての取りまとめをしたところであります。

つきましては、下記事項についてご要望申し上げますので、ご了承下さるようお願い申し上げます。

記

1 朴坂集落営水道について

朴坂集落営水道は、まだ村内に上水道が普及していない昭和30年代初期に、集落民の涙ぐましい努力により建設したものであり、40年近く経た今日でもなお住民の生活用水として重要な水道であります。よって次のことを要望いたします。

- (1) ダム完成後も、水質、水量を現在の水準で維持していただきたい。
- (2) 工事中も、供給に大きな支障を及ぼさないようにしていただきたい。

2 工事用道路について

朴坂山は景観に優れた山であり、集落民の心のよりどころでもあります。また道路の建設場所によっては、地質や地形から崩壊の危険性も心配されます。よって次のことを要望いたします。

- (1) 工事用道路の建設・使用に当っては、山の崩壊防止と法面保護を徹底していただきたい。
- (2) 山の景観を損なわないよう、最大限の配慮をしていただきたい。
- (3) ダム工事が完了した後の工事用道路については、その時点で、山林復元するか林道として存続するか、集落の意向にそって決定していただきたい。

3 下流域に養鯉池などがありますので、工事によって悪影響のないようにしていただきたい。

4 1から3以外でも問題が生じた場合には、速やかに両者（村上営林署と朴坂集落）で誠意をもって協議し、善処していただきたい。

5 以上の要望事項について後日のために文書による覚書を交わし、その後に工事着手していただきたい。

以上

資料③

◎サンコウチョウ (ヒタキ科)

夏鳥としておもに本州以南の低地から低山の林に渡来。

【形態】目の回りとくちばしは青く、からだはぶどう色。

おすの尾はとても長いが、めすの尾も長め。

【習性】ツキヒホシホイホイホイとさえずる。



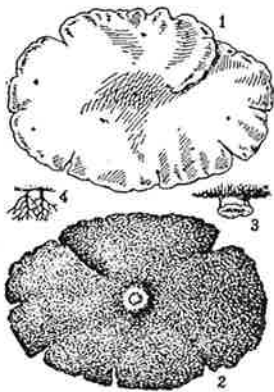
出典：日本の野鳥、小学館

出典：牧野植物図鑑、北隆館

3817. いわたけ

Gyrophora esculenta Miyoshi

〔いわたけ科〕



岩石上に生ずる葉状地衣で、日本では古くから食用として知られている。ほぼ円形で、径5~10cmのものが多いが、まれには30cmを越すものがあり、老成するにしたがって形も不整になり、辺縁は波曲し裂ける。表面は乾けば褐色で平滑であるが、湿った時には暗緑色を呈する。裏面は全部一様に黒色で中央に1個の突出した臍状体があって基物に着生し、他の部分は遊離する。黒色の短い分岐する刺状毛を叢生する。子器を生ずることはまれであるが、時には1個体上に数百個を生ずることもある。子器は黒色、炭質、半球状で地衣体上に座し、表面は渦巻状を呈する。胞子は無色、1室、楕円体状、16~30 × 8~12μ、8個ずつ子嚢中に生ずる。本種は低地から高山の中腹までの裸出した花崗岩、または古生層に属する岩石上に生じ、北海道、本州、四国、九州、朝鮮に分布する。図の1は表面、2は裏面、3は臍状体、4は刺状毛の拡大図。

佐藤修一さんのように自分の足元の水と関わっている会員の方も他にたくさんいらっしゃると思います。自分たちの考えを行政の人達に伝えていく努力はとても重要なことであり、その積み重ねがこれから運動を起こしていく人達にも力になることでしょう。

さて次のリレーエッセイは防水工事という仕事に携わっている木村和宏さんをお願いしたいと思います。

信濃川.千曲川 交流会 in 阿賀野川.福島潟.咲花温泉

森本 利



恒例の信濃川・千曲川交流会が3月12日、13日、咲花温泉他でおこなわれました。

長野の水辺の会と年1回の持ち回りで行っており、今回は3回目です。

阿賀野川舟下り

三川村「阿賀の里」を出発し、上下流約5Kmを1時間にわたって、アメリカ人、イギリス人を含めて約30人がカモ汁つきで楽しみました。

咲花温泉.意見交換会.懇親会

ホテル丸松のお城「天祥閣」のホールで桜井会長（長野・信州大学）「川の富栄養化について」、本田さん（新潟）「白鳥を中心に世界の野鳥写真」、石月（新潟）「福島潟整備計画について」の発表が行われました。桜井先生は46年間在籍された信州大学を3月に退官され、自宅を事務所に今までどうり活動されるそうです。（ますます、忙しくなるものとおもわれます。）

懇親会は長野8名、新潟17名が支配人差し入れの寒梅を飲みながら、会としては珍しくリッチな飲み会で盛り上がり、次回は富山県の黒部学会を交えて三者での交流会を行うことでまとまりました。

瓢湖.福島潟

翌日は途中瓢湖に立ち寄り、福島潟へ向かいました。福島潟公園管理棟で、現在進められている『福島潟自然生態園整備事業』などの説明を清水さん（豊栄市博物館）、中村さん（豊栄市議）から受けて、野鳥観察舎でバードウォッチングをしました。残念ながらヒシクイの時期は過ぎていましたが、数種の野鳥が観察できました。（鳥のことはよくわかりません）

そのあと豊栄市博物館で沼のような水田での田植え風景の珍しい映画（昭和30年代か）を見て、記念写真をとって、解散しました。

感想

1回目は秋山郷、2回目は長野市と、この会は似たもの同士の会が親睦と交流、勉強、刺激を求めて行っています。いつも長野の会は熱心で参加者も多く、浜さんや長田さんは子供がそのまま大人になったように好奇心が旺盛で、感動する気持ちはいつも私たちの刺激になっています。会員も幅が広く、今回参加された水本さんは八十二銀行が設立した八十二文化財団に所属されており、副頭取が蝶のマニアということもあり、環境や文化に対しての支援をしていくそうです。新潟も、どこの銀行とは言いませんが、そのような財団があってもいいと思いました。

次回は長野県か富山県で行います。皆さんの参加を期待します。

水辺の会の会員の皆様へ

八木 栄子

4月を迎え、今年もまた春がやってきました。よい季節になりました。まずは、私事で恐縮ですが、前々から宣伝していました3月26日の佐治晴夫さんの講演会は、主催者の予想を大幅に上回り、万代市民会館のホールで補助椅子を出すほどの盛況でした。どうもありがとうございました。本当に素晴らしい講演会で、佐治先生もとても喜んでいらっしゃいました。佐治先生は、そばにいるだけでまわりを癒してしまう方で、ああいう人間に私もなりたいなあ・・・と遠い道のりながら思います。きっと、また新潟でお会いすることができると思います。その時は、今回出会えなかった方は、ぜひお会いしてくださいね。

それから、講演会で先生が言い忘れ残念がっていたのですが、5月22日（日）10:00AMからBSNの『草柳大蔵の新サンデー・トーク』というインタビュー番組に出演なさるそうです。講演会に行かれた方、またお目にかかれますね、行かれなかった方も、ぜひチャンネルを回してください。

それから、八木はグリーンシグマを辞めることになりました（このたよりが着く頃は既に失業しています）。水辺の会を辞めるというわけではありませんが、これまでのようにやっていく形はとれないと思います。今まで、このおたよりも好き勝手に書かせてもらい、事務局としてずいぶんご迷惑をおかけしたこともあったと思いますが、ご勘弁ください。

水辺の会も、新しい展開が始まっていくことでしょう。新陳代謝はいろんな意味で大事なことだと思えます。わたしも、失業者としての新たな人生の幕開けなわけで、それも楽しみたいと思ってます。とにかく、そんなわけなので、今後ともよろしく願います。



新潟の水辺を考える会7周年記念イベント

今年で7年目を迎える水辺の会、“7”を祝ってなにかやろうよってな話が起っています。内容が決るより先に日取りだけは決めてしまい、本会場と夜の会場だけはすでに押さえていました。

日時：10月1日（土） 午後～

会場：新潟市の万代市民会館 280人規模の大ホール

今のところ、哲学者 内山節さんを招いての講演や映画「あらかわ」の上映などを考えていますがまだ決定したわけではなく、何をやるかはこれからのおたのしみにおきましょう。開催実行委員会も事務局だけでつくるのではなく、会員のみなさんに広く参加してもらいたいと思っていますのでぜひよろしくお願いします。こんなことやりたいという意見を聞かせてください。

「市長と夢を語り合う会」に参加しませんか

新潟市企画財政局の総合計画策定プロジェクトチームからお便りが届き、新潟市の行政計画の柱となる第四次総合計画の策定にあたり、市民グループからの意見をきかせてくださいという内容のものでした。

5月31日（火）に「市長と夢を語り合う会」の開催を予定しているので、まちづくり市民グループの1つとして水辺の会からも代表者を一人出してくださいとのことでした。

発言者は1グループ1名ということなので水辺の会世話人を称している相楽治さんが参加することにしましたが、会員のみなさんも傍聴することはできます。

人数を4月末までに把握したいので、参加希望の方は事務局に連絡ください。

平成6年5月31日（火）午後5時45分～午後8時すぎまで

会場：白山会館 胡蝶の間

テーマ：「新潟市の魅力アップ大作戦」

雨水利用東京国際会議が開かれます

メインテーマは「雨水利用は地球を救う一雨と都市の共生をもとめて」。

世界で初めて、学者・研究者だけでなく、町のおじさんもこどもも参加できる気軽な国際学会になるそうです。

期間：1994年8月1日（月）～6日（土）

会場：すみだリバーサイドホール・墨田区役所

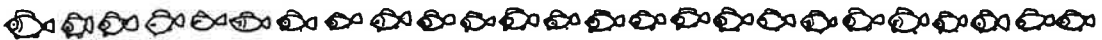
主催：雨水利用東京国際会議実行委員会

共催：墨田区 日本・国際雨水資源化学会

詳しい内容、参加申込方法等を知りたい方は水辺の会事務局へ。

これからの予定

- ・5月12～13日 自然環境復元研究会シンポジウム in 盛岡
- ・7月 ビール・バーベキュー大会「常浪川」 in 上川村
- ・8月 カヌー体験
- ・9月9～10日？ 水郷水都全国会議 in 釧路 日付が？…未確認なので？としました。



編集後記

春は別れの季節であり、また新しい出会いの季節でもあります。

ずーと長い間水辺の会事務局を動かしてきた八木さんが、新しい人生航路へ向けて会社を離れていくことになりました。これからの八木さんに水辺の会からエールを送りたい！

もちろん水辺の会からさよならではないのですが、このお便り編集作業は川口にシフトしていくことになりました。ああ、この穴をどうしてうめたらよいのでしょうか…と途方にくれていましたら、知野泰明さん（2月に伝統的河川工法のお話をされた方）が助っ人として現れてくれました。今号のウォッチングお誘い文は知野さんの手によるものです。

グリーンシグマの社員の方々もいままで以上に協力してくださるとのことですので、これからも楽しいお便りをお届けできるようがんばります。

川口
新潟の水辺を考える会

〒950-21 新潟市大学南1丁目7821-5

電話 (025) 263-2733